

「ソ連の後継者はエリツィンのロシアであることを宣伝するための会議」とも皮肉られた多国間交渉は、開催費用をサウジアラビアが全面負担することによって、一月二八～二九日の両日モスクワで行われた。

マドリッド会議前に旧ソ連との国交回復、この多国間交渉を前に中国と国交樹立。和平といふ美名のもとにイスラエルを承認させ、代わりに、会議に参加させるというアメリカ帝国主義とイスラエルの外交展開が、天安門事件以来、國際的孤立に苦しんできた中国に異論のあろうはずはなかった（ブッシュ政権は、逆の形ではあるが、イラク政権とアメリカ帝国主義・CIA

の多国間交渉を前に中国と国交樹立。和平といふ美名のもとにイスラエルを承認させ、代わりに、会議に参加させるというアメリカ帝国主義とイスラエルの外交展開が、天安門事件以来、國際的孤立に苦しんできた中国に異論のあろうはずはなかった（ブッシュ政権は、逆の形ではあるが、イラク政権とアメリカ帝国主義・CIA

は、イラクに対して見せた御都合主義を中国に對しても見せたのである）。

「モスクワ会議はアラブの利益に反する。なぜなら、（土地と引き替えの平和という原則に關して）これまでの会議で何ら確実な、あるいは肯定的なものがなされる前に行われるからである」、したがって「われわれはモスクワへは行かない」（アラブ連盟外相会議の一月二四日のシャラーブ外相）と聲明したシリアとレバノンはボイコットした。また、その「会議で難民問題も主要な議題の一つとして扱われる以上、領

V画面に流され、同盟側の一方的な勝利とアメリカ帝国主義の一元的支配が喧伝された湾岸戦争から一年。帝国主義側はフセイン、イラク大統領の権力の座にのみ焦点を当てて云々しているが、イラク政権とアメリカ帝国主義・CIA

中東レポート

湾岸戦争一年後の姿が浮き彫りになつた多国間交渉

一九九二年一月一〇日

中東レポート

浮き彫りになつた多国間交渉

「当然」として臨んだパレスチナ代表団は、その構成問題を理由に結局ボイコットした。

「クウェート解放の戦争から一年」、「湾岸戦争は力による領土の掠め取りを否定する原則を明確にし……それは、アラブ＝イスラエル対立の解決のため現在進行している原則」として活動されている、といったまつたくおめでたい論調が一部にある。三当事者と地域のOPECの四カ国不在という会議は、本当に問題の解決を目指そうとするものと言えようか？

今号では、その多国間交渉に焦点を当ててみたい。

一 多国間交渉に示される特徴

第76号

発行 ウニタ書舎
東京都千代田区神田神保町1-52
TEL.(03)3291-5533
編集 J.R.A.
郵便振替 東京1-48443
三菱銀行神保町支店 当座9012656
会員制 年会費24000円

目次	湾岸戦争一年後の姿が浮き彫りになつた多国間交渉
資料	
・土地防衛の呼びかけ	
・われらが戦士への疑惑の多い攻撃をやめ、敵シオニストどもに対決するため隊伍を整えよ！	
・強弁としての「和平」	
・共同声明	
・ハバシュ書記長問題に関するプレス・リリース	
重要日誌（一九九二年一月一一日～二月一〇日）	14

日本帝国主義の政府援助のあり方への批判が大きくなつてお、政府役人・王族との腐敗しきつた関係のなかで儲けようとするほど、人民大衆の心を逆撫ですることにしかならない。

外相の渡辺は、パレスチナの自決権を云々した。もし、それを言うなら、まず自らがパレスチナの唯一正当な代表であるPLO東京代表部の外交的地位を承認することが先決である。また、日本の国際的役割を強調するなら、中東和平における国連の役割を推進する側でこそコメントすべきである。

参加アラブ諸国のはとんどは、湾岸危機のなかに公約した民主化を反古にし、帝国主義との関係、イスラエル、ユダヤ資本との関係のなかに、その生存の途を見い出そうとしている。

一月二一日に在米ユダヤ評議会の代表団がサウジアラビアを訪問し、外相と会った際に、サウジ王子はイスラエルの承認を示唆し、同時にエルサレム問題の解決抜きに中東問題の解決が可能であることをも表明している。すなわち、根本問題の解決よりも、イスラエルとの共存と帝国主義との関係と援助を望むというのである。それは、ミニ・マーシャルプランとして古くからヨルダンのフセインが提案していたことでもある。

それゆえ、マドリッド会議を前に前線五カ国とGCC、マグレブ連合の代表団を含めた外相会議で、アラブの共同歩調を約束していたにもかかわらず、一月二十四日のアラブ外相会議で、PLOからエルサレム問題、難民問題を主要議

題として結束しようという提起、シリア、レバノンからは根本問題の前進が見られない状況ではボイコットをという提起があつたにもかかわらず、多国間交渉への一致した方策を決めようともしなかつたのであり、パレスチナ代表団の遂げるため、そしてそれを糊塗するためひいたアラブの姿でもあつた。

二 味方勢力の動向

シリアは、ベーカーの歴訪に際しても、領土問題、パレスチナ人民の自決権の問題といった根本問題での進展が行われてからのみ多国間交渉に入るべきという対応をし、そのためにもアラブ側の立場の統一の必要性を主張してきた。一〇月二四～二五日のダマスカスでの当事者四カ国にエジプト、サウジアラビア(GCC代表)、モロッコ(マグレブ代表)を加えた外相会議ではその主張が受け入れられ、シリアは、何回もイスラエルが交渉の進展を妨害している現状では多国間交渉はイスラエルを利するだけであり、自らは参加しないし、他のアラブ諸国も同様の歩調を取るよう呼びかけてきた。

レバノンのエズレル外相も、一月一五日、多国間交渉への招待状を受け取ったが、「いまだそうした会議を行なうほどの機会は熟していない」と参加を促した。が、アサド大統領は、「イス

ラエルは和平に抵抗し、被占領地からの撤退を拒否している」、しかもそうしたシヤミール政権の対応は「これまで以上に非妥協的になつてゐる」と言わざるをえない現状にあり、そういう状況下での多国間交渉は「アラブ－イスラエル対立の正当で包括的な解決」とは相容れないし、イスラエルを利し、アラブ内に分裂を作らうという(帝国主義とシオニスト)の画策となりわけ、米国との貿易摩擦が抜き差しながらの状況に陥つており、ヨーロッパでも、アジア諸国でも反日気運が高まっているなか、中東を「開拓」せんという企業利益追求の姿勢が丸見えである。

すでに、アラブ・ボイコットの解除を期待してイスラエルとの関係改善を計り、他方で、湾岸産油国に取り入つてている。だが、国際的にも中国をも抱き込んで、アメリカ帝国主義の威光を誇示することが狙いである。国連ではなく、あくまでも米国・ロシアの共同主催という形式を果たせない。多国間交渉は政府間の交渉であり、パレスチナ人は政府でもないし、将来的にも政府たりえない」と語つてゐる。それは、今後もパレスチナ人の民族自決権を認めない、というシヤミール政権の姿勢を示すものである。

このように、アラブ－イスラエル対立の中心問題を棚上げにして、多国間交渉が開催されたのである。中国との国交樹立に際して、「われわれはイスラエルの国際的孤立に終わりを告げる段階に至つた」と評したシヤミールは、この多国間交渉の日には、「夢が現実になった」と勝ち誇つてゐる。

アメリカ帝国主義の意図は、アラブ(とりわけ湾岸の産油国)とイスラエルを和解させ、包摂的な支配を行うことであり、それを通した新世界秩序を樹立立てることがある。マドリッド大使にノー、独自代表にノーを主張し、ベーカーはそれを条件として押し付けてきた。ワシントンで「廊下外交」と言われた、会議形態をめぐる停滞は同じことに根を持つていたことは言うまでもない。このような理不尽なイスラエルの主張に対抗するため、パレスチナ側は在外三名、東エルサレム三名を含む一一名の独自代表

に参加する意志のないことを表明している。これに対して、エジプトのムバラクは、一月一八日外相のムサをダマスカスへ送り、シリアに参加を促した。が、アサド大統領は、「イスラエルは和平に抵抗し、被占領地からの撤退を拒否している」、しかもそうしたシヤミール政権の対応は「これまで以上に非妥協的になつてゐる」と言わざるをえない現状にあり、そういう状況下での多国間交渉は「アラブ－イスラエル対立の正当で包括的な解決」とは相容れないし、イスラエルを利し、アラブ内に分裂を作らうという(帝国主義とシオニスト)の画策となりわけ、米国との貿易摩擦が抜き差しながらの状況に陥つており、ヨーロッパでも、アジア諸国でも反日気運が高まっているなか、中東を「開拓」せんという企業利益追求の姿勢が丸見えである。

すでに、アラブ・ボイコットの解除を期待してイスラエルとの関係改善を計り、他方で、湾岸産油国に取り入つていている。だが、国際的にも

中国をも抱き込んで、アメリカ帝国主義の威光を誇示することが狙いである。国連ではなく、あくまでも米国・ロシアの共同主催という形式を第一にしていることにもそれは証明されている。

だが、アメリカ帝国主義の一元的支配とブッシュの再選を確実なものとした、と言われた湾岸戦争から一年。問題は山積みし、ほころびが続出という状況にも示されるが、うわべだけの仲良しグループだけで世界平和＝世界支配を樹立立てようという状況にも示されるが、決してうまくいくわけがない。

日本帝国主義は、湾岸戦争で大量の金を出したがら、戦後再建で冷飯を食わされた。それを挽回することを狙つて、また札ビラを切つて：：というよりも、今度こそがつぱり稼ごうといふのである。イラン－イラク戦争が終結するやいなや、イラクを戦争危険国のリストから除外して、国家間援助と商取引を大幅に拡大し、サッダム・フセイン政権を取り入つてきたし、南北戦争から一年。問題は山積みし、ほころびが続出という状況にも示されるが、うわべだけの仲良しグループだけで世界平和＝世界支配を樹立立てようという状況にも示されるが、決してうまくいくわけがない。

日本帝国主義は、湾岸戦争で大量の金を出したがら、戦後再建で冷飯を食わされた。それを挽回することを狙つて、また札ビラを切つて：：というよりも、今度こそがつぱり稼ごうといふのである。イラン－イラク戦争が終結するやいなや、イラクを戦争危険国のリストから除外して、国家間援助と商取引を大幅に拡大し、サッダム・フセイン政権を取り入つてきたし、南北戦争から一年。問題は山積みし、ほころびが続出という状況にも示されるが、うわべだけの仲良しグループだけで世界平和＝世界支配を樹立立てようという状況にも示されるが、決してうまくいくわけがない。

することを目指す、「われわれはパレスチナ民族として一体であり、われわれはこの一体性を再確認し、それを建国の中で実行する決意である」。これはパレスチナ側が会議向けに用意した演説の眼目とも言えるものである。被占領下のパレスチナ人しかパレスチナ人と認めないアメリカ帝国主義とイスラエルに対して、全世界に四散している同胞を含めた一体性とその民族的権利を主張したこの草稿は、しかし、会議の中ではなく、報道陣に向けて発表されることになった。

「挑戦的な演説論旨」と報じたメディアもあつた。シリアやレバノンのような国家は、参加拒否という戦術が明確な立場を示すものとして成り立つ。だが、八八年の建国宣言以来多くの国々が承認しているとはい、敵の側が国家として見なしておらず、独自代表団さえも認めないばかりか、アラブ内の多くが参加を選択している。そういう情況にある以上、こういう形で対応し、民族性を明確に示すことを選んだ。アラブ内の無視にもかかわらず、パレスチナ側は民族としての一体性を強調し、敵の抹殺策動に立ち向かった、とロイターは伝えているが、パレスチナ側は、今後、その民族的同一性をより強化し、主体的に情勢を切り開いていくことを示したのである。

三 もはや、和平討議を必要としなく

一月のワシントン会議で、「廊下外交」から

また、二月三日、ムスタファ・アカウイ氏が法廷で拷問の事実を証言した後、殺されるという事件が起つた。一二名の追放問題と同様、国際法を平気で踏みにじつてゐる姿がここでも明らかになつてゐる。

アメリカ帝国主義は、中国の人権問題をはじめとして、いろいろな国を批判の対象に挙げてゐるが、イスラエルの人権問題にはいつさい触れようとしている。そればかりか、七五年の国連総会決議の撤回に示されるように、イスラエル擁護を行つてゐる。ハイチ難民の強制送還に示されるように、自らが非人道的行為を行つており、奴らが「人権問題」などと騒ぐのが、何のためであるかはあまりにも明白であろう。

その人権道上の問題としては、ハバシュPFLP書記長の病気治療拒否、尋問問題があつた。ハバシュ書記長のフランスに着が報じられたとたん、イスラエルが騒ぎたて、フランスの保守派もそれに唱和し、治療を拒否したうえに同書記長を拘束下に置いた。これに抗議してフランス政府内の五人が辞任した。

「パレスチナ人民なんて存在しない」とい切つたのは、第三次中東戦争時の首相ゴルダ・メイヤーであるが、そこまで大胆な嘘を言わないまでも、シャミールはパレスチナ人民の抹殺にやつきである。それもこれも、「エレツ・イスラエル（大イスラエル）」のためであり、「神圣な義務」であると和平破壊＝併合推進策動を展開しているし、そうした策動は極右の声援をえて今後よりいつそ強化される傾向にある。

だが、人口二〇〇万を有するテルアビブ圏の調査（一月二三日発表）では、住宅費用やその他の生活保証が段違いに優つてゐる西岸、ガザの入植地での居住を希望する者はわずか〇・九%しかいない。そして、別の調査では、和平と引きかえの土地の返還を限定的ではあれ認めるべきという者が五四%に上つてゐるし、在外ユダヤ人内からのシャミールのあり方への批判はいつそ大きくなつてゐる。これがそのままシャミールの併合政策への支持・反対とは結びつかないまでも、極右の支持をいいことにしている。シャミールが和平破壊策動を激化すれば、これまでに自滅への道を突つ走る者に……。

■ 資 料 ■

土地防衛の呼びかけ（抄）
民族統一指導部—PLO、および
パレスチナ国の呼びかけ第七八号

パレスチナ人民内は、決して統一しているとはいえない現状にある。だが、自滅への道を突き進むシャミールの併合推進策動は、確実にパレスチナ人民の統一と团结を打ち固めるという「業績」を示してゐる。そしてパレスチナ側は、交渉と闘いは決して矛盾するものではないことを多国間交渉において示したのである。

一月の二国間交渉でのイスラエル側の対応に對して、アシラウイ女史は、イスラエルはすでにエルサレムを含むパレスチナ領土の六五%を接收しており、「このまま入植活動が続けば交渉にならなくなる」と非難するとともに、入植活動の停止と米国の援助停止を訴えた。一月二七日、領内のPFLP声明は、「現在進行していることへのわれわれの回答は武装闘争である」と宣言している。

われらが英雄的人民、殉難と耐苦の人民、ラマラ、シルワン、ジェニン、ヘブロン、ナブルス、ラファー、ヌサイラート、アスカラ、ジヤバリアをはじめとするパレスチナの全市全村、全キヤンプの人民へ、シオニスト、ファシスト、植民地主義的入植者どもと闘い続けていふ人々へ。

われらが人民大衆へ

脱却し、パレスチナ代表団が自らの自治案を提出。それが、二国間交渉で討議されるだろうと再確認し、それを建国の中で実行する決意である。これはパレスチナ側が会議向けに用意した演説の眼目とも言えるものである。被占領下のパレスチナ人しかパレスチナ人と認めないアメリカ帝国主義とイスラエルに対して、全世界でではなく、報道陣に向けて発表されることになった。

「無任所相ゼーヴィなど」の二党が、自治交渉への反対を理由に、連立内閣から離脱することを科学相ネーマンなどとモルデット（郷土党、シャミールなど）とモルデット（郷土党、シャミールは、領土交渉には反対であり、アラブ内の無視にもかかわらず、パレスチナ側は民族としての一体性を強調し、敵の抹殺策動に立ち向かつた、とロイターは伝えているが、パレスチナ側は、今後、その民族的同一性をより強化し、主体的に情勢を切り開いていくことを示したのである。

一月二一日のブッシュ政権への手紙で、シャミールは、「領土も和平も」という欲張った姿勢とも言われ、実際には和平の意志なしとして、労働党などから批判が出ているのだが、いかないという。わが原則に忠実であることを強調、実質的な選挙戦に入つたかのような発言と言われるとともに、これは「領土も票も」という姿勢だと評されている。一〇日には、「われわれはジュディア、サマリア（西岸のこと）、ガザの全体で建設を見ることができるし……世界のどんな力もこれを停止することはできぬい」「わたしは何かを犠牲にするようにならなければなりません（だが仮に、米国との関係が悪くなつても、移民の受け入れと生活保証を選ぶ）。なぜなら、移民問題はわが国民の神聖な義務であり、他のすべての義務、民族的義務もまた同時に神聖な義務だからである」と、ブッシュ政権による一〇〇億ドルの信用供与と入植活動の停止の抱き合せ提案を拒否するとしている。

一月二一日のブッシュ政権への手紙で、シャミールは、「領土も和平も」という欲張った姿勢とも言われ、実際には和平の意志なしとして、労働党などから批判が出ているのだが、いかないという。わが原則に忠実であることを強調、実質的な選挙戦に入つたかのような発言と言われるとともに、これは「領土も票も」という姿勢だと評されている。一〇日には、「われわれはジュディア、サマリア（西岸のこと）、ガザの全体で建設を見ることができるし……世界のどんな力もこれを停止することはできぬい」「わたしは何かを犠牲にするようにならなければなりません（だが仮に、米国との関係が悪くなつても、移民の受け入れと生活保証を選ぶ）。なぜなら、移民問題はわが国民の神聖な義務であり、他のすべての義務、民族的義務もまた同時に神聖な義務だからである」と、ブッシュ政権による一〇〇億ドルの信用供与と入植活動の停止の抱き合せ提案を拒否するとしている。

アムネスティ・インターナショナルが、一月二二日に、シャミール政権に対し、八七年にレバノン軍團によつて捕えられた六人のレバノン人（ヒズバラ・メンバー）を秘密裏にイスラエル内へと移してゐること、それを国際赤十字に通知していないばかりか、国際赤十字の調査に対しても隠していたことを告発している。

速、ワシントンでの二国間交渉での決裂は、あらゆる解決にイスラエルが示す拒否の当然の帰結ではあった。国際意志への極端な反抗、帰還・自決・建国をはじめとする彼らが人民の権利をふみにじつての拡張主義的政策の継続。その一方で、イスラエルは米国が公正中立な調停者としてあるまことに、難色を示している。だがワシントンの実体は、なおイスラエルとの連携に疑惑され、二股外交政策を続けており、唯一の超大国として全世界を支配せんとの野望を押し進めているのだ。

われらが戦闘的大衆へ

現段階は、われらが人民と民族の大義双方にとって、きわめて危険なものである。それゆえ、われわれはより注意深く、よりしつかりと民族的团结を堅持しなければならない。そして、政治的立場や見解の如何にかかわらず、われらが人民の唯一正當な代表PLOとインティファードー^ダ拡大とに結集しなければならない。民族統一指導部（以下UNL）はインティファードー^ダの成果を決して手放さず、インティファードー^ダを守り、さらには自由と独立の達成、聖地エルサレムにパレスチナ旗のはためくまで、あらゆる手段をもってそれをエスカレートさせることを誓う。

堅忍不拔のわれらが人民へ

入植者によるわれらがシルワンの人民の家屋接収に対し、シャミール人種主義極右政府が容認行動にてたことは、今一度、イスラエルのわれらが人民・土地への日常的殺人行為とを討議し、抑圧の排除と人民保護に向けた決定的・実践的結論を下すため、急ぎ緊急総会を招集するよう、呼びかける。

UNLは、占領と入植者の蛮行とに抗議する大規模な大衆行動を、パレスチナ国全土にわたり展開するよう、呼びかける。

UNLは、エルサレムにおいてユダヤ人への不動産売却に関わったことが証明された者全員の処刑の決定を再確認する。攻撃部隊は、該当事案の調査を行うよう、われわれは呼びかける。

UNLは、占領と入植者の蛮行とに抗議する大規模な大衆行動を、パレスチナ国全土にわたり展開するよう、呼びかける。

UNLは、われらが英雄的商人に対し、増税攻撃と先月ピーコクに達したローヤリティ賦課とに対決するため、隊伍を緊密にするよう、呼びかける。イスラエルの税制は、占領地域の開発、公共サービスへの出資を占領者に義務づけた国際法に則つてはおらず、ゆえに、われわれは納税拒否の堅持も、あわせて呼びかける。

UNLは、パレスチナ国法律諸団体に、被占領地での国際法律家会議を可及的、速やかに開催することを呼びかける。これはパレスチナ市民への圧迫強化に走るイスラエルの行為を検討するためであり、以下の行為が含まれる。無差別砲砲命令、入植地建設の急増、パレスチナ人家屋の実力占拠、土地・財産の収用、飢餓、外出禁止令の長期化、樹木の乱伐、家屋破壊、大学その他教育機関の閉鎖、経済締め付けの強化、被占領地のアラブ的性格の改竄その他、パレスチナ人のアイデンティティと存在とを物理的にも精神的にも消去せんがための諸行為。

UNLは、パレスチナ解放の闘いに新時代を画したパレスチナ革命二七周年に際し、「パレスチナ解放運動」（ファタハ）に表敬するとともに、即刻介入するよう訴える。特に国連新事務総長、ブロス・ガーリ氏に、この情勢悪化と

彼らが首都エルサレムの併合とユダヤ化の意図を明らかにした。これと同様、ラマラ、ビレー、ヘブロン、サイール、エルサレム郊外のアーヴィングにおける野放団な入植者どもの野地も財産も放棄させようとのイスラエルの公的政策の一部以外の何ものでもない。このきわめて緊迫した占領下情勢に鑑み、UNLは、国際社会に対し、これを黙殺し続けぬよう警告するよう、呼びかける。

当局の全面支援を受けた人種主義入植者の家庭接収に英雄的に抗し、土地と財産を守ったシリコン、ラマラ、ビレー、ヘブロン、サイール、ラファーの人民たちよ、われらは諸君を称え、さらに抵抗を強化するよう呼びかける。彼らを狩りたて、息の根を止めよ。われらは、シリコン村民の側にたつたイスラエルの名譽ある

平和・民主勢力にも敬意を表する。いつそう奮闘し、かかる蛮行の人種差別の性格を暴露し、終息させよ。イスラエル社会内部でのデモ・抗議行進に主導性を發揮してほしい。

UNLは、国連総会がシオニズムを人種主義の一形態の一つとみなす総会決議三三七九を撤回したことを行なう。かかる介入を拒否したカラキリエ、およびジェニンの商人たちは、全商人が統くべき範である。エルサレムのアラブ商業会議所選挙監視委員会に対し、われわれは直ちに準備にはいるよう、呼びかける。委員会が遅滞するようであれば、われわれは商人の意志にそつて新たな機構を見い出すであろう。米国政府はこの動きの張本人

である。シオニズム擬制国家は、今なお最も野卑な手段をもつて人種的抑圧を行つておる。UNLはこの決議が存在理由を失なつてはいないことを確信する。

われわれは、また、ダカールでのイスラーム諸国首脳会議において、「ジハード（聖戦）」の語が決議から抹消されたことに対し、非難する。

NATOの対イラク人民侵略一周年に際し、NATOはイラク人民と断固ともにすることを表明するとともに、独立国家共同体が、パレスチナの民族的権利をひき続き支援し、中東、ひいては世界に公正かつ包括的平和をもたらす上に効果ある政治的役割を演じることを訴える。

UNLは、インティファードー^ダの継続・拡大へ

の集中を呼びかける。また、ラファーからジエニンに至る全地域の人民委員会の改組・拡大、および各攻撃部隊のより広汎な基盤の上にたつた再編を呼びかける。これは、入植者どもの新方針に対決していくためである。彼らはシャーミールとその極右政権から全面的かつ公的に支

被占領地内に関して

UNLは、インティファードー^ダの継続・拡大へ

の集中を呼びかける。また、ラファーからジエニンに至る全地域の人民委員会の改組・拡大、および各攻撃部隊のより広汎な基盤の上にたつた再編を呼びかける。これは、入植者どもの新方針に対決していくためである。彼らはシャーミールとその極右政権から全面的かつ公的に支

援されている。

UNLは、エルサレムにおいてユダヤ人への不動産売却に関わったことが証明された者全員の処刑の決定を再確認する。攻撃部隊は、該当事案の調査を行うよう、われわれは呼びかける。

UNLは、占領と入植者の蛮行とに抗議する大規模な大衆行動を、パレスチナ国全土にわたり展開するよう、呼びかける。

UNLは、われらが英雄的商人に対し、増税攻撃と先月ピーコクに達したローヤリティ賦課と

に対決するため、隊伍を緊密にするよう、呼びかける。イスラエルの税制は、占領地域の開発、公共サービスへの出資を占領者に義務づけた国際法に則つてはおらず、ゆえに、われわれは納

税拒否の堅持も、あわせて呼びかける。

UNLは、パレスチナ国法律諸団体に、被占領地での国際法律家会議を開催することを呼びかける。これはパレスチナ市民への圧迫強化に走るイスラエルの行為を検討するためであり、以下の行為が含まれる。無差別砲砲命令、入植地建設の急増、パレスチナ人家屋の実力占拠、土地・財産の収用、飢餓、外出禁止令の長期化、樹木の乱伐、家屋破壊、大

学その他教育機関の閉鎖、経済締め付けの強化、被占領地のアラブ的性格の改竄その他、パレスチナ人のアイデンティティと存在とを物理的にも精神的にも消去せんがための諸行為。

UNLは、パレスチナ解放の闘いに新時代を画したパレスチナ革命二七周年に際し、「パレスチナ解放運動」（ファタハ）に表敬するとともに、即刻介入するよう訴える。特に国連新事務総長、ブロス・ガーリ氏に、この情勢悪化と

もに、自由と独立、そして聖地エルサレムを首都とした建国の日まで闘いを継続する決意を表明する。

UNLは、わざらが商人たちに、占領当局の商業会議所選挙への介入を拒否するよう、呼びかける。かかる介入を拒否したカラキリエ、お

よびジェニンの商人たちは、全商人が統くべき範である。エルサレムのアラブ商業会議所選挙監視委員会に対し、われわれは直ちに準備にはいるよう、呼びかける。委員会が遅滞するようであれば、われわれは商人の意志にそつて新た

な機構を見い出すであろう。米国政府はこの動きの張本人

スマスと新年の祝賀を贈る。

UNLは、一部の民族的人士・団体にかけら

れるだけのものである。

UNLは、ドラッグ商人、とりわけエルサレムのアン・ナサーラ地区に巣喰うブローカー

もなければ、攻撃部隊がまもなくお前たちを迎える行くことを、UNLは確言する。

UNLは、わざらが大衆に以下の諸活動を行なうよう、呼びかける。

一月一日は、「パレスチナ解放運動」（ファタハ）発祥の、そしてまたパレスチナ現代革命の二七周年記念日であり、著しいエスカレーションの日である。パレスチナ旗が各戸に、公共広

場に、パレスチナ国全土に掲げられねばならない。

一月二日は、シオニズムを人種主義の一形態とした国連総会決議三三七九撤回に抗議するゼネストの日である。黒旗が各戸に、公共広場に、

パレスチナ国全土に掲げられる。

一月三日、四日、五日は際だつたエスカレーションの日である。占領軍と入植ギャングによるその冒頭の日である。同大学閉鎖の延長決定に抗議を。

一月五日、七日、一五日、二二日には、全商店は夕刻まで営業しなければならない。

一月九日は、インティファードー^ダ五〇カ月目突入の日であり、ゼネストを。

一月一二日は、堅忍不抜のシルワン村との連帯の日である。大衆行進（複数）が組織され、

村のアラブ的性格と入植ギャングによるその冒頭の日である。大衆行進（複数）が組織され、

一月一七日は、イラクの英雄的人民に対してする大衆的諸活動の日である。セミナーや集会が開かれ、請願や電報が国際諸組織に送られる。

一月二三日、三〇日は、反占領を訴え、われらが人民の、その唯一正當な代表PLOへの結集を示威する際だつたエスカレーションの日である。

U N L - P L O パレスチナ国
九一年二月三一日

呼びかけ七八号の補遺

(九二年一月四日、U N L は以下を発した。
輝けるインティファーダの息子たちへ—英雄主義、犠牲と堅忍の叙事詩をつくりだした者たちへ。

シオニスト占領当局の抑圧とテロルは続いている。逮捕キャンペーンの強化、全面的あるいは部分的外出禁止令の乱発、家屋の破壊もしくは封鎖、インティファーダの英雄たちに対する暗殺・狩りたて政策、そして最新のものが、西岸およびガザのパレスチナ人活動家一二名の追放である。これらの最も野蛮な人種的、ファッショ的弾圧の目標は、もちろん、われらが戦士たちの士気沮喪、大衆の間での不満、失望の蔓延にある。

だが、かかる弾圧は、われらが人民の闘争継続の決意をいつそう強めるだけである。すでに数万の殉教者と数十万の負傷者、獄中者をうみだしているわれらが人民は、かつてないほど強く、闘いの、自由と独立、建国達成までの継続を決意している。

われらが英雄的大衆へ

シオニズム擬制国家のわれらが正当な民族権利への拒絶、そして四九年のジュネーブ条約をはじめ、国連決議、国際法の侵害は、国際社会と国連に、こうした政策に対して断固たる態度

をとること、これまでの国際諸決議の履行に向けて動くことを從来にもまして求めている。U N L は国連安保理に、追放措置と最近のシオニストによる抑圧の強化を検討し、追放政策を破棄せしめ、われらが人民への国際的保護を確保するため、緊急理事会を開くよう、呼びかける。

わかれらが英雄的大衆へ

米帝国主義の無制限の支持および国連と国際社会のパレスチナの大義に対する二股政策がなかつたならば、シオニズム擬制国家がその極悪非道をなしえないことは確實である。

インティファーダの果敢なる息子たちへ
隊伍を整え、しっかりと団結しよう。敵はわれらを「ひとつみなし、暗殺、逮捕、追放に際して区別などしない。大衆全体に襲いかかってく

るのだ。分散の種を拒否し、現場での全面的な占領軍と入植ギャングに抵抗し、今回の追放ギヤンペーンへの抗議として行わねばならない。

一月六日、八日、九日はゼネストと占領軍兵士・入植ギャングに対する暴力的エスカレーションの日である。

一月七日は赤十字社本部での座りこみの日である。追放政策への抗議文が各國際組織に送られる。

一月一日は、民族的大デモの日である。
一月六日より一二日までは、占領と入植者によ

対するユニークな闘いの週である。

わかれらが戦士への疑惑の多い攻撃をやめ、敵シオニストどもに対決するため
隊伍を整えよ！（抄）

P L O (パレスチナ領内) 声明

自己犠牲を發揮している大衆へ！輝かしき

インティファーダの息子たちへ—統一と戦闘の有効な力をもつて幾たびとなく敵をうちまかしてきたパレスチナ民族勢力の諸人士へ！

そして、この偉大な人民のすべての自由の戦士たちへ！

帝国主義とイスラエルの同盟は、われらが人の民族的権利とアイデンティティを抹消することを目的として、われらが大義を自治の問題に切り縮めている。われらが大義が歴史的抹殺の危機にさらされているまさにそうした時こそ、われわれすべてが民族的結合、戦士的团结を保つこと、われらが人民と大義を防衛し、インティファーダを拡大、強化することが必要とされている。そうした時に、民族派（ファタハ）の傘下の憎むべき一味が、民族主義勢力に対する攻撃、殺人、デモを妨害、捏造と歪曲の声明を発表、民族的人道的施設への攻撃などを行つている。

われらが戦闘の大衆へ
そうした行為がすでに限度を越えた今、われわれは諸君が彼らを通告する必要性ありと考へる。民族的伝統と名声を汚す者たちを判別でき

た。しかし、われわれは、P L O 主流の政治指導の誤り全部を、情勢のせいにのみ帰することはできない。なぜならば、誤まりは、今のべた情勢上の二つの事件に先立つものだったからだ。

パレスチナ人およびアラブ人の間で生じた混乱には根拠があつたために、混乱が生じた。しかし、われわれは、P L O 主流の政治指導の一部となるところまで、徐々におさえこまれてしまつた。主流派が民族統一指導部（U N L）の呼びかけ文に介入し、建国は間近だと幻想してみよう、八九年以降、被占領地の「高等委員会」は

るからである。また、われわれはファタへの兄弟たちに、こうした憎むべき一味とのケリをつけるよう呼びかける。

そうした立場に立つがゆえに、P F L P は以下の犯罪的行為を非難する。

一、一二月四日、ナブルスで、一部の武装グループが、われらが支持者への攻撃を行つた。

二、一二月二十四日、ナブルスで、敵シオニストが捜し求めているわれらが支持者への攻撃を行つた。さらに翌日、われらが支持者の幾人かへの攻撃と人道的医療機関への攻撃がなされ、かつ、大衆が獄中者への連帯とシルワン村でのユダヤ人の入植活動に対する抗議デモを予定していたのを妨害した。

三、ある地方で、一人のP F L P 支持者の異常な行為——わが戦線はわれらが人民の名譽と統制にしたがつて村人たちの前でこの男への処罰を行つたのだが——をネタに、P F L P の原則を攻撃するための声明が配布された。

四、サバステイア、ファレア、ベイタでのわれらが支持者宅への乱入、「家宅搜索」と戦闘的な物品の強奪。

さらに、そうした一味は、ファタへの戦闘的な人士をも攻撃している。多様な攻撃例をここに列挙することはせず、ただ、こうした一味が、われらが大衆、商店、民族的人道的施設へのさまざまな卑劣な行為を行つてゐることを付記するなどである。

今、そうした犯罪行為を調査し、そうした犯罪者どもを放逐する時である。

P F L P は、そうした行為を非難するものであり、同時に、まずファタハ内のわれらが兄弟たちがこうした問題を、彼ら自身で解決するよう呼びかける。それは、われわれの民族的統一を第一とし、インティファーダと武装闘争を拡大し、民族的統一を強固にし、敵の陰謀を打ち破り、人民、インティファーダ、民族のアイデンティティを防衛するためである。われわれは、大衆からなる民族的委員会を形成し、そうした悪業の調査を行い、民族的統一を強固にする協定を実行に移すことを要求するものである。

一民族的和平と戦闘的團結万歳！
一自由と独立までインティファーダを継続せよ！
P F L P
正統な代表 P L O 万歳！



「アル・ハダフ」特別号（第一〇八二号）

わかれらが戦闘的大衆へ

権利、とりわけ帰還・自決・建国の権利を承認した国連諸決議に基づく、公正な平和である。もし、今べた諸権利が達成できるのなら、パレスチナ全土に対するわれわれの歴史的権利をあきらめてもいい。が、こうした条件にかなわぬ提案は、拒否する。なぜなら、それは、占領支配の継続を意味するからだ。現在の「和平」と強弁されている過程を通して占領の合法化がないよう、われわれは闘い続けねばならず、実際投降的解決受諾よりはさらに一〇年、二〇年、抵抗を続ける方がはるかにマシである。進行中の「和平」過程は、国連決議ではなく「キヤンプ・デービッド」協定に基づいているからだ。

この点をブッシュは、マドリッド会議冒頭できわめて平明に指摘した。パレスチナの大義の実現とは、「自治」だというのだ。すなわち、占領当局が、土地・水・安全保障に対する権利を保持し続けるわけだ。その一方で、入植地、移民流入、対イスラエル援助は増加の一途をたどり、チエニーはイスラエルとの戦略的同盟関係を再確認し、交渉は、イスラエルに最大の成果を約束する多国間交渉へと推し進められる。イスラエルにはテリケートに、アラブには威迫をもつて臨んでいる。そのワシントンの提案とは、次のようなものだった。

1. パレスチナ人の自治の付与。
2. 西岸およびガザでの入植地建設の凍結。
3. レバノン占領イスラエル軍の撤退。ただし、両国間の安全保障条約調印とのひきかえ。
4. ゴランのシリア主権下への返還。方法は交渉をもつて臨んでいる。そのワシントンの提案とは、次のようなものだった。

一月二六日、パレスチナ各派と人士はダマスカスに会し、以下の共同声明を発した。

共同声明 PFLP-GC機関誌「イラーム・アマーム」二二四号

慈悲深く、恵み深い神の名において、われらが民族の大衆へ

民族的、汎アラブ的、イスラム的責任の念をもつて、われらは、民族の、アラブの、そしてイスラムの大義が直面している深刻な危機を検討するために一堂に会した。われらの抵抗を抑え込み、われらが人民の民族的、アラブ的、イスラム的属性を抹消しさうとする企てに対する

ていない。さらに言えば、現在即刻解放をなしとげる力はない。この溝は戦闘的計画と持久的抵抗で埋めるしかないのだ。

しかし、現状が永遠に続くわけではない。われわれの主体の戦闘的要素も歪小化するべきではない。現実の中から新たな戦闘的仕組みをつくっていくことだし、それは可能だ。われわれに関する限り、PLOをわれわれの精神的結晶体として、かつまた、パレスチナ人民の唯一正当な代表として支え続けるとともに、国民憲章を堅持し、諸行動、なかんずくインティファーダを発展させ、民族的団結を強化していく。政治的分化そのものには、大衆が決着をつけるだろう。

以上のことに鑑みてわれらは……

1. 被占領下の郷土にあるわれらが人民の不屈

を讀えるとともに、祝福されたインティファーダを継続、拡大し、危機と試練とに立ち向かうべくパレスチナ内外を通じた民族的団結を強化し、民族の、イスラムの全力を反占領に向けて統一することを呼びかける。

2. PLOの会議参加は、前述の危機を実体化し、アラブ、イスラムの参加諸国にその口実を与えることになるがゆえに、PLO指導部に対し、会議ボイコットを呼びかけ、

シオニズムの陰謀的「解決」が第三段階、すなはち多国間交渉段階に達したのだ。この段階は、パレスチナ人民の正当な民族的権利と帰属性との否定のうえに、シオニズム擬制国家の存在を合法化することを狙つており、われらの会談への拒否も、その危険性によつているのである。すなわち、会談は、まずパレスチナ全土に対するわれらが人民の歴史的権利に触れることを回避しており、次に擬制国家とアラブ、イスラム諸国間の正常化をなし、もつてわれらが人民が民族の防衛に捧げてきた多大な犠牲を顧みることなく、アラブーシオニズム对立の難民問題への解消、対立の核心たるパレスチナの大義の解体に至らんとしており、さらには、敵シオニストに、奴らが戦争によって得られないなかつたものを与えようとしているのだ。

以上のことに鑑みてわれらは……

1. 二八日(火)、被占領下の郷土でのゼネスト。2. パレスチナの、そして離散下のわれらが大衆においては、現在の清算的陰謀への拒否といたり、アラブ大衆イスラム大衆においては、デモ、

西側の投資拡大、ドイツ・日本の中東への資金援助。

5. ユダヤ移民の受け入れと生活保証への援助として、イスラエルに借款および便宜を供与。

6. アラブの経済成長のための地域銀行設立、

涉において決め、両国は安全保障条約に調印。あるいはそれを回復する権利を持つことをも確認する。

疑いもなく、主流派の考えは、その意図には関わりなく、米国の泥沼にはまりこむことにならう。「地獄への道は善意でしきつめられてい」と（訳注：レーニン）とも言うではないか。

しかも、パレスチナの一派が保証した、いわゆる「自治」文書を米国は持つており、アラブや

マドリッドでブッシュが提案したことはまさしく、六七年に彼がモハムメド・アル・ジャーバ

リ氏とアジズ・シェハディ氏に提案したことなのだ。

自治政府が独立国か

ダヤンが生きていたなら喜んだことだろう。マドリッドでブッシュが提案したことはまさしく、六七年に彼がモハムメド・アル・ジャーバリ氏とアジズ・シェハディ氏に提案したことなのだ。

何をなすべきか

実情から話そう。ここには、ふたつの要素がある自由はないだろう。何らかの合意達成の後、代表團がそれを「暫定的」なものだとして正当化しようとしても、隣接アラブ諸国との関係正常化を通して、イスラエルの地権、水利権は拡大されるだろうし、現在の移民と入植の熱病、新マーシャル・プランの下では、自治は占領の聖化にしかならないだろう。

われわれがかちえた国連諸決議のうち、七四年に総会で採択された三二三六号を例にとると、こうある。

1. われらはパレスチナにおけるパレスチナの人民の確認された諸権利、とりわけ、A. 外部の干渉を排した自決権、およびB. 独立権と民族的主権を再確認する。
2. われらは、また、パレスチナ人が失った

線の悲劇的後退、第三に、主流派の米国路線への加担である。われわれはこの困難を決してみくびってはならないが、とはいえ、わが人民を投降せしめることはできない。われわれは、新しい現実、新しい闘争形態を産みだし、全世界に、パレスチナの望む平和は、米国－イスラエルのそれとは真逆のものであり、幻想的なそれとも違うことを証さねばならない。

第二の要素は、主体的問題だ。われわれは民族的に合意され、長期にわたってわれわれの闘争を導いてきた綱領以外、新しいものをもちえ

びかかる。

4. アラブおよびパレスチナの被占領地と民族の尊厳との回復を強調し、この会談をボイコットするシリアルを高く評価するとともに、民族の、アラブのそしてイスラムの諸原則にしたがつて会議参加を拒否したレバノンほか、アラブ、イスラム諸国を讃える。

5. 会議参加に同意した幾つかのアラブ、イスラム諸国を非難し、欠席するよう呼びかける。

6. われらは、われらが人民の間に分裂の種を撒き、内部抗争に至らしめんとする企てを、きかれる企てと対決し、インティファーダの堅持するよう、呼びかける。

1. 二八日(火)、被占領下の郷土でのゼネスト。2. パレスチナの、そして離散下のわれらが大衆においては、現在の清算的陰謀への拒否といたり、アラブ大衆イスラム大衆においては、デモ、

の側に立った鮮明な立場の表明など、あらゆる手段をもって、この陰謀に対決されたい。

パレスチナ解放人民戦線—総司令部派「PFLP—GC」

イスラム抵抗運動（ハマス）

パレスチナ人民闘争戦線

パレスチナ革命的共産党

パレスチナ解放運動（ファタハ）

「イスラミック・ジャーナル」

イスラムサ派

パレスチナ・イスラム聖戦運動（イスラミック・ジャーナル）

パレスチナ解放戦線〔編注〕・同組織は三分解したうちの一つ

ハバシュ書記長問題に関する
プレス・リリース（抄）

PFLP政治局

フランス当局も承認した、緊急治療のため、ジョルジュ・ハバシュ PFLP書記長のパリ到着に対し、フランスの一部親シオニストたちが危機を捏造した。が、彼が無事帰還した今、PFLPは以下の諸点を指摘したい。

1. PLO指導部もPFLP指導部も、今回の旅行が危機をもたらすなどとは考えてもいなかった。公的処置と接触がPLOによってとられたいたからである。したがって、今回、フランスを紛糾に巻込んだ者は、フランスとの信望を損なつたことについて、またフランス—パレスチナ、フランス—アラブ関係に及ぼす結果に

・B・ガーリー、国連パレスチナ権利委員会で、「先任者がインティファーダの開始時から強調していた」「ジュネーブ条約尊重、安保理決議堅持をイスラエルが遵守すること」「自決権を含めたパレスチナ人民の正当な権利の承認、エルサレム問題は重要」

一月二〇日
・西岸、レジスタンスがイスラエル軍を攻撃、南部、レジスタンスがイスラエル軍を攻撃、二人を殲滅、二人を負傷させる。『爆発事故』と発表したが、二〇日に兵士が自殺、メモから射殺が明白になる。

一月二二日
・アムネスティ、ヒズバラ、メンバー六人を

・シリア、イスラエルが入植政策の凍結、パレスチナ人民の権利の保証、被占領地からの撤退などを約束しないならば、金融保証は和平への死の一撃となろう」「それはワシントンが中東和平に関わる責任と信用のテスト」と

・レバノン、イスラエルがサイダ地区を空爆。

一月二四日
・アラブ連盟外相会議、多国間交渉への対応で一致作れず。

一月二五日
・西岸、ビルゼイテ大学の米人教師射殺される。

一月二六日
・西岸、アラブ側は、イスラエルが「和平（交渉）から逃亡した」と非難。次回の場所や日付も合意できず。

一月二七日
・西岸、イスラエル軍の収容所へ連行される途中で三三歳のパレスチナ人が射殺される。「暴行事件」と発表したが、二〇日に兵士が自殺、アサド大統領、エジプトのムサ外相に、「イスラエルが和平に抵抗し、撤退を拒否している」以上、モスクワへ行かないことを明示。

一月二九日
・シヤローネン、パレスチナの自治を認めるなら入植地帯を併合すべし、自治区は南アフリカンシップ同様に飛び地化し、水、電力、警察などの基礎的なものをイスラエルの手に。

一月二三日
・シリア、「イスラエルが入植政策の凍結、パ

・シリア紙、「イスラエルは多国間交渉を通じて、アラブ内にみぞを作ろうとしている」

・南部、ゲリラがテル・ハルファ村の裏切り者の家二つを爆破。名指しの非難を受けていた

・西岸、ガザ、極右入植者による不法行為拡大。

一月二二日
・エルサレム、一二名追放抗議の集会に、アラブ各國の立場と役割などを讀え、彼らのハバシ

・西岸、ガザ、極右入植者による不法行為拡大。

一月二二日
・エルサレム内からも批判高まる。

一月二二日
・アシユラウイ女史は、「パレスチナ人のみがパレスチナ人のためパレスチナ人を代表しうる」アラブ・シリア代表団長、「もし、その希望

・西岸、ガザ、極右入植者による不法行為拡大。

一月二二日
・エルサレム内からも批判高まる。

一月二二日
・アシユラウイ女史、アメリカが占領地と入植のため金を出すなら交渉は続けられない。

一月二二日
・安保理、全会一致で対リビアへの警告採択。

一月二二日
・アムネスティ、ヒズバラ、メンバー六人を

・シリア、イスラエルが入植政策の凍結、パ

・シリア紙、「イスラエルは多国間交渉を通じて、アラブ内にみぞを作ろうとしている」

・南部、ゲリラがテル・ハルファ村の裏切り者の家二つを爆破。名指しの非難を受けていた

・西岸、ガザ、極右入植者による不法行為拡大。

一月二二日
・エルサレム内からも批判高まる。

一月二二日
・アシユラウイ女史は、「パレスチナ人のみがパレスチナ人のためパレスチナ人を代表しうる」アラブ・シリア代表団長、「もし、その希望

・西岸、ガザ、極右入植者による不法行為拡大。

一月二二日
・エルサレム内からも批判高まる。

一月二二日
・アシユラウイ女史、アメリカが占領地と入植のため金を出すなら交渉は続けられない。

一月二二日
・安保理、全会一致で対リビアへの警告採択。

一月二二日
・アムネスティ、ヒズバラ、メンバー六人を

・シリア、イスラエルが入植政策の凍結、パ

・シリア紙、「イスラエルは多国間交渉を通じて、アラブ内にみぞを作ろうとしている」

・南部、ゲリラがテル・ハルファ村の裏切り者の家二つを爆破。名指しの非難を受けていた

・西岸、ガザ、極右入植者による不法行為拡大。

一月二二日
・エルサレム内からも批判高まる。

一月二二日
・アシユラウイ女史は、「パレスチナ人のみがパレスチナ人のためパレスチナ人を代表しうる」アラブ・シリア代表団長、「もし、その希望

・西岸、ガザ、極右入植者による不法行為拡大。

一月二二日
・エルサレム内からも批判高まる。

一月二二日
・アシユラウイ女史、アメリカが占領地と入植のため金を出すなら交渉は続けられない。

一月二二日
・安保理、全会一致で対リビアへの警告採択。

一月二二日
・アムネスティ、ヒズバラ、メンバー六人を

・シリア、イスラエルが入植政策の凍結、パ

・シリア紙、「イスラエルは多国間交渉を通じて、アラブ内にみぞを作ろうとしている」

・南部、ゲリラがテル・ハルファ村の裏切り者の家二つを爆破。名指しの非難を受けていた

・西岸、ガザ、極右入植者による不法行為拡大。

一月二二日
・エルサレム内からも批判高まる。

一月二二日
・アシユラウイ女史は、「パレスチナ人のみがパレスチナ人のためパレスチナ人を代表しうる」アラブ・シリア代表団長、「もし、その希望

・西岸、ガザ、極右入植者による不法行為拡大。

一月二二日
・エルサレム内からも批判高まる。

一月二二日
・アシユラウイ女史、アメリカが占領地と入植のため金を出すなら交渉は続けられない。

一月二二日
・安保理、全会一致で対リビアへの警告採択。

一月二二日
・アムネスティ、ヒズバラ、メンバー六人を

・シリア、イスラエルが入植政策の凍結、パ

・シリア紙、「イスラエルは多国間交渉を通じて、アラブ内にみぞを作ろうとしている」

・南部、ゲリラがテル・ハルファ村の裏切り者の家二つを爆破。名指しの非難を受けていた

・西岸、ガザ、極右入植者による不法行為拡大。

一月二二日
・エルサレム内からも批判高まる。

一月二二日
・アシユラウイ女史は、「パレスチナ人のみがパレスチナ人のためパレスチナ人を代表しうる」アラブ・シリア代表団長、「もし、その希望

・西岸、ガザ、極右入植者による不法行為拡大。

一月二二日
・エルサレム内からも批判高まる。

一月二二日
・アシユラウイ女史、アメリカが占領地と入植のため金を出すなら交渉は続けられない。

一月二二日
・安保理、全会一致で対リビアへの警告採択。

一月二二日
・アムネスティ、ヒズバラ、メンバー六人を

・シリア、イスラエルが入植政策の凍結、パ

・シリア紙、「イスラエルは多国間交渉を通じて、アラブ内にみぞを作ろうとしている」

・南部、ゲリラがテル・ハルファ村の裏切り者の家二つを爆破。名指しの非難を受けていた

・西岸、ガザ、極右入植者による不法行為拡大。

一月二二日
・エルサレム内からも批判高まる。

一月二二日
・アシユラウイ女史は、「パレスチナ人のみがパレスチナ人のためパレスチナ人を代表しうる」アラブ・シリア代表団長、「もし、その希望

・西岸、ガザ、極右入植者による不法行為拡大。

一月二二日
・エルサレム内からも批判高まる。

一月二二日
・アシユラウイ女史、アメリカが占領地と入植のため金を出すなら交渉は続けられない。

一月二二日
・安保理、全会一致で対リビアへの警告採択。

一月二二日
・アムネスティ、ヒズバラ、メンバー六人を

・シリア、イスラエルが入植政策の凍結、パ

・シリア紙、「イスラエルは多国間交渉を通じて、アラブ内にみぞを作ろうとしている」

・南部、ゲリラがテル・ハルファ村の裏切り者の家二つを爆破。名指しの非難を受けていた

・西岸、ガザ、極右入植者による不法行為拡大。

一月二二日
・エルサレム内からも批判高まる。

一月二二日
・アシユラウイ女史は、「パレスチナ人のみがパレスチナ人のためパレスチナ人を代表しうる」アラブ・シリア代表団長、「もし、その希望

・西岸、ガザ、極右入植者による不法行為拡大。

一月二二日
・エルサレム内からも批判高まる。

一月二二日
・アシユラウイ女史、アメリカが占領地と入植のため金を出すなら交渉は続けられない。

一月二二日
・安保理、全会一致で対リビアへの警告採択。

一月二二日
・アムネスティ、ヒズバラ、メンバー六人を

・シリア、イスラエルが入植政策の凍結、パ

・シリア紙、「イスラエルは多国間交渉を通じて、アラブ内にみぞを作ろうとしている」

・南部、ゲリラがテル・ハルファ村の裏切り者の家二つを爆破。名指しの非難を受けていた

・西岸、ガザ、極右入植者による不法行為拡大。

一月二二日
・エルサレム内からも批判高まる。

一月二二日
・アシユラウイ女史は、「パレスチナ人のみがパレスチナ人のためパレスチナ人を代表しうる」アラブ・シリア代表団長、「もし、その希望

・西岸、ガザ、極右入植者による不法行為拡大。

一月二二日
・エルサレム内からも批判高まる。

一月二二日
・アシユラウイ女史、アメリカが占領地と入植のため金を出すなら交渉は続けられない。

一月二二日
・安保理、全会一致で対リビアへの警告採択。

一月二二日
・アムネスティ、ヒズバラ、メンバー六人を

・シリア、イスラエルが入植政策の凍結、パ

・シリア紙、「イスラエルは多国間交渉を通じて、アラブ内にみぞを作ろうとしている」

・南部、ゲリラがテル・ハルファ村の裏切り者の家二つを爆破。名指しの非難を受けていた

・西岸、ガザ、極右入植者による不法行為拡大。

一月二二日
・エルサレム内からも批判高まる。

一月二二日
・アシユラウイ女史は、「パレスチナ人のみがパレスチナ人のためパレスチナ人を代表しうる」アラブ・シリア代表団長、「もし、その希望

・西岸、ガザ、極右入植者による不法行為拡大。

一月二二日
・エルサレム内からも批判高まる。

一月二二日
・アシユラウイ女史、アメリカが占領地と入植のため金を出すなら交渉は続けられない。

一月二二日
・安保理、全会一致で対リビアへの警告採択。

一月二二日
・アムネスティ、ヒズバラ、メンバー六人を

・シリア、イスラエルが入植政策の凍結、パ

・シリア紙、「イスラエルは多国間交渉を通じて、アラブ内にみぞを作ろうとしている」

・南部、ゲリラがテル・ハルファ村の裏切り者の家二つを爆破。名指しの非難を受けていた

・西岸、ガザ、極右入植者による不法行為拡大。

一月二二日
・エルサレム内からも批判高まる。

一月二二日
・アシユラウイ女史は、「パレスチナ人のみがパレスチナ人のためパレスチナ人を代表しうる」アラブ・シリア代表団長、「もし、その希望

・西岸、ガザ、極右入植者による不法行為拡大。

一月二二日
・エルサレム内からも批判高まる。

一月二二日
・アシユラウイ女史、アメリカが占領地と入植のため金を出すなら交渉は続けられない。

一月二二日
・安保理、全会一致で対リビアへの警告採択。

一月二二日
・アムネスティ、ヒズバラ、メンバー六人を

・シリア、イスラエルが入植政策の凍結、パ

・シリア紙、「イスラエルは多国間交渉を通じて、アラブ内にみぞを作ろうとしている」

・南部、ゲリラがテル・ハルファ村の裏切り者の家二つを爆破。名指しの非難を受けていた

・西岸、ガザ、極右入植者による不法行為拡大。

一月二二日
・エルサレム内からも批判高まる。

一月二二日
・アシユラウイ女史は、「パレスチナ人のみがパレスチナ人のためパレスチナ人を代表しうる」アラブ・シリア代表団長、「もし、その希望

・西岸、ガザ、極右入植者による不法行為拡大。

一月二二日
・エルサレム内からも批判高まる。

一月二二日
・アシユラウイ女史、アメリカが占領地と入植のため金を出すなら交渉は続けられない。

一月二二日
・安保理、全会一致で対リビアへの警告採択。

村の分割策動に抗議。

一月二十五日

・南部、レバノン政府軍がUNIFIL地区の八つの町村に展開。

一月二六日

・南部、ゲリラ攻撃（二ヵ所で）。イスラエル兵一名死亡、ゲリラ側は三名死亡。ニューヨーク・タイム紙、米国は八二年から情報、武器などのイラク支援を行っていた。

一月二七日

・領内PFLP、「占領へのわれわれの回答は武装闘争の拡大である」という声明発表。在米ユダヤ評議会代表、シャミールに「入植も一〇〇億ドルも」を批判。

一月二八日～二九日

多国籍交渉。

一月二九日

・ハバシュPFLP書記長、脳卒中の治療のためにフランスへ（二月一日にチュニスへ帰るも、この間一時拘束など）。

一月三十日

・アムネスティと国連人権委員会、被占領地内の人権侵害の重大さに警告。無差別逮捕、弁護士なし、拷問、接見禁止など。

一月二日

・イスラエルの五〇周忌で、「四年の英國中東相の暗殺は大成功した例」

・イスラエル占領軍、発砲枠の拡大。

・「アブ・ニダール」という本の出版、FRCがフランス、サウジアラビア、ベルギー等と裏取引し、治療や留学などの便宜を取り付け

ていた、また、FRCにはモサドが潜入、等。

二月三日

・アブデル・シャフィ氏、「ソヴィエト移民には反対しない」が「四八年難民を含めた」

パレスチナ人民の権利も同様に人権問題

・米国議会、イラクの武器開発に米企業一三が関与、またベーカーは国連、IAEAに報告をねぎった、等。

二月四日

・M・アカウイ氏、前日法廷で拷問の事実を証言した後、獄中で殴り殺された。

・CIA長官ゲーツ、エジプト、サウジアラビア、イスラエルなどの訪問に出発（対イラク共謀などのため）。

・リビア、仏国に犯人引き渡し条約の交渉を呼びかけ。

二月五日

・エルサレム、アカウイ氏虐殺抗議のゼネストとデモ。エジプト、イスラエル人二人をスペイ罪で逮捕と発表。

二月一六日（日）

・二月一六日（日）、イスラエル軍は、南部のジブシート村近くでヒズバラ書記長アッバース・ムサウイ師の乗った車を狙つてヘリコプターによるミサイル攻撃を行い、同師らを暗殺した。

前々夜、ガリリーの軍事訓練基地（四八年領内）で三人を暗殺、一人を負傷させ、ライフル四丁を盗みだすという作戦があり、それへの報復とイスラエル軍は言っている。

しかし、戦争相のアレンスは、同作戦主体はファタハ（アラファト派）であると断定、PLA非難の口実にし、一六日朝のパレスチナ人キャンプ二ヵ所への空爆を自慢している。他方で、ヒズバラはレバノン内で、イスラエルによる南部の占領に反対して、作戦展開をしていることは、敵もよく知っている。また、一二月の同村での誘拐事件も、よくジブシート村を訪れる同師を狙つたものだったことを自己暴露している。

・シャミール、「イスラエルはもはやキャンプ・デービッドに拘束されない」

二月八日

・南部、ゲリラ作戦。イスラエル兵一名負傷。仮外務省、ハバシュ書記長問題でイスラエル外相の発言に抗議。

二月九日

・ワシントン・ポスト、米国のサウジアラビア防衛合意は四七年にすでに結ばれていた。

・アルジェリア、非常事態宣言。

速報

